

市民と市長との対話集会会議録【要旨】

令和6年8月16日 かしも ふれあいコミュニティセンター

開会

市長あいさつ

対話集会ではテーマを決めて、それを達成するためにどうしたらいいか、どうやったら中津川市やそれぞれの地域が良くなっていくかを考えたい。限られた時間だがよろしくお願いします。

参加者

約 20 年前の合併の時に公民館の図書室を管理する人がいなくなることでボランティアを立ち上げた。管理だけではなく、図書室があることを子どもたちに知ってもらうために小学生へ読み聞かせをしたりしている。

公民館は市の方針で耐震工事を行うため 3 回目の引っ越し。仕方ないことだが、自分たちでもっと運営できないかと思う。市の傘下にあると、紙 1 枚買うのも大変。福岡などは指定管理で独自に活動しており、加子母にも指定管理で管理していく体制はあると思う。指定管理になれば、児童図書室では講座などさまざまなイベントを自由にやりたいという夢を持っている。ある程度人を集めようと思うと、お金が必要。さまざまなものを作っている人がいるのでそれを売ったりできると良い。公民館はみんなで集まりいろんな活動ができる場で、小さい子どもを持つお母さんたちにとって図書室は数少ない安心できる場。それも踏まえて、ぜひお願いしたい。

参加者

障がいのある子は、中央の図書館は人が多くてパニックになってしまう。加子母の図書室には良い空間ができあがっており、落ち着いた時間が過ごせる重要な場所。加子母にそういう場が残るとうれしい。

私は 27 年ぐらい前に地域おこし協力隊のようなもので加子母に赴任して来て、その後移住してずっと住んでいる。人口約 3000 人の小さい村で、当時の役場が「山村文化の創造するむら」というキャッチコピーでやっていた。明治座をはじめ、当時いいなと思った加子母の文化、風土がずっと生き残ってほしい。

かしも通信を作っている。村がなくなる時に広報紙に加子母の記事が少ししか載らなくなるのではないかと、加子母のことをみんなで共有するために始まった。加えて、外から来た人がメインで作っており、私たちから見た加子母の良さを伝えるためのツールでもある。

市長

かしも通信を拝見したが、クオリティーが高く素晴らしい。加子母は連携が取れて、しっかりとしたコミュニティがある。市内にある、同じように頑張っている地域と連携していけると良い。お互いのいいところを参考に、相乗効果が生まれるような気がする。ぜひかしも通信を他の地域にも参考にしてもらいたい。

参加者

加子母では大体年間 100 人のペースで人口が減っており、これからも減っていくと思う。さまざまなことができなくなり、どうなっていくか不安だができるところまでやるしかないので頑張りたい。

明治座の 130 周年にあわせて本を作るためいろんな人に話を聞いている。知らなかった話がどんどん出てくるし、こんなことがここで行われてきたのはすごいと改めて思う。本ができたらぜひ見て欲しい。

明治座で開催されるクラシックコンサートは 25 回目。出演者たちもビックになって、遠いところからお客さんが来られる一大イベントになりつつある。僕は仕事があったり、人数が減ってきており非常に負担が大きく、職員の異動などで手順がわからず上手く回らないのがここ数年の悩み。準備期間 1 週間だけでも経験者がほしい。注目度も高くなってきているのも嬉しい。

市長

今すぐ答えは出せないが、やり方次第だと思う。一緒になって考えていくことが大事だと思う。

参加者

移住サポーターをやっている。合併した 1 カ月後に移住して来た。夫婦で露地栽培中心の農家をして 16 年目。基本的に直売所のみでやっている珍しいパターン。加子母は遊休農地が増えてきて、やっていけない畑を譲り受けて今では 5 町歩。トマトの就農の人はすごく来るが、集約栽培なので面積を使わない。もちろん移住し、1 つの家族が住むことはすごく大きい。トマト栽培は確立されているが、面積使う農家が増えれば遊休農地のほとんどが解消され、ウィンウィンだと思うが露地栽培をする人はほとんどいない。温暖化で、夏の時期に野菜をとれる地域は標高の高いところに上がってきている。見方はいろいろだが、チャンスと言えどチャンス。土地も家もある。畑を使うということは地主にも周りにもすごいプラスなことだと思う。

市長

露地栽培が広まらないのには何か理由があるのか？

参加者

完全に独自路線をいかなきゃいけない。露地栽培は基本的にいろんな品種でまわしていく方が多いので、売り先が難しい。加子母には直売所もあるし、近くに下呂温泉もあるし、宅配する方もいるし、何家族が増えれば良い。技術を教えたり、機械を貸したりとかはできるが、結局は本人次第。どんなことでもそうだが、入口として露地栽培は入りにくいところはあるのかなと。

市長

移住のポイントは、住むところと仕事。生活できる収入を得られるか。露地栽培で生活が回せる仕組みができれば、それは選択肢として大いにあり得る。

参加者

農業は天候や害獣などのリスクがあり、それをどうクリアしていくのかがはじめる人は不安だと思う。大きな壁があると思うので、それがうまくとっばらえるといい。

参加者

私は都会で生まれ育ち、2002 年に結婚を機に加子母に来た。仕事の時もオフの時も目の前にきれいな自然があり、静かにゆったりと生活を送っている。子育て環境もとても気に入っている。小・中学校では地域の農家などの方が学校で直接授業をしてくださり、早くから働く大人との関わりを持てる。小さな地域だが子どもをみんなで育てているのを日々実感している。

気になるのは国道脇の歩道の整備が遅れていて、地割れなどがある点。中学生は自転車で通学するが、毎年のように入学してすぐ転んで自転車を壊す子がいる。車も良く通る道なので、もし車道に出てしまったら怖い。車社会だから大人も気付けない。学校には危険箇所などの話は毎年するが、なかなか直らない。子どもや高齢者が毎日通る道が少しでも良くなるといい。

市長

大事なことなのでどこまで話が伝わり、どういう計画なのかということも含めて確認する。

参加者

うちの子も 1 年生の 5 月ぐらいに転んで歯が折れた。少しでも道が良くなるとありがたい。

参加者

毎年誰かが骨折をする。似たような危険な場所がたくさんある。

参加者

自転車で通っていた頃、実際に地割れにタイヤを取られたり、雨で滑って車のすぐそばまで出てしまい車とぶつかりそうになり怖いと思ったことがある。危険箇所について中学生たちの意見を聞いた方が良い。

市長

わかりました。安全に通学してもらうのはとても大事なことです。

参加者

加子母で生まれ育ち、家が明治座の隣だがこんなに明治座を大事にしてもらっていたのかと話を聞いて思った。私は余りにも加子母のよさを知らないと感じたし、良い風に思ってくださいありがとうございます。

私は福祉の仕事をしており、今の介護保険の制度が始まり便利にはなったが、不便になった点もあった。退職と同時に、自分たちの力でその穴埋めをしたくて立ち上げたボランティアが「えぷろん」。お年寄りに限らず困ったことがあったら、何でも頼ってねという活動している。メンバーは 14 人ぐらいで、依頼の内容は病院に行く間の家族の介護をして欲しい、家族が薬を飲んだか確認して欲しいなど。10 分 100

円でやっている。私たちの分野でなければ必ず専門の方につなげる。介護保険が始まる前は隣近所で助け合って、できていたことだが、制度では対応できない部分に困っている状況にある。安否確認とかも、朝 10 分の仕事を交代でやっている。ボランティアのグループに入らなきゃいけないわけではない。安心して暮らせる加子母が理想なので、ぜひ若い方たちも互助共助、よろしくお願いします。

市長

なかなかできない活動。他の地域でも同じようなことをやる方はあんまりいないのではないかな。

参加者

参考にしたのは山口。付知などとは相談しながらやっている。もっと広がっていくと良い。

参加者

私が学生の頃、東日本大震災がありコミュニティ作りなどを教育の中で盛んに行なっていた。元々、どうすればコミュニティが作れるか考えたが分からず、加子母でフィールドワークをした。加子母に来てすぐに環境デーがあり、国道に住民がザーッと並んでいてコミュニティがあることがわかった。その後に、鉄板焼きなどを食べる会にも招いてもらい、集まって何かをやることにとても感動した。気付いたら今は子どもと奥さんと 3 人で加子母に住んでいる。歌舞伎や獅子舞に誘ってもらってさまざまな経験をし、それが僕にとってはすごく豊かで贅沢な時間だと感じる。仕事をしながら毎年続けるのは大変だが、それも含めて楽しんでいきたい。生活しているだけでも楽しくて豊かで、そういう経験ができることが子どもの教育にも良いことだと思う。そういう経験からできるものづくりや、そこに豊かさや創造性みたいなものがあると感じ、そういう面でも何か自分の仕事に還元されてくるような気がする。今後、人口減少でどんどんやれることは減っていくと思う。増加する空き家を住宅のみではなく、研究室や宿、他の用途に転用しながら住民ではないが中期滞在している人達と交流する地域の姿が広がっていくとすごく素敵だし、そのためにこれからも活動していきたい。

市長

若い学生が地域の皆さんと関わっているのは加子母のコミュニティ独特の感じだと思うし、とても良いこと。市内の他の地域は羨ましいと思う。

参加者

大学を卒業して加子母に戻ってきて、今は下呂市で個人事業主として働いて 2 年目。元から都会で生活する気はなく、いずれは地元に戻ってきたいと思っていた。戻るには仕事が第一だったので、大学で国家資格を取得した後、学生時代に手伝っていた事業を引き継いだ。私は地元の人脈があって戻れたが、戻りたいし関わってきたいが、住むところや仕事がなく戻れない人もたくさんいる。地方からの人口流出は進んでいるが、決して田舎が嫌で出て行っているわけではない。強く地元に関心を持っている人はいるので、その人たちの何かしらの形で地元に貢献したいという思いを生かしていくことが大事なんじゃないかな。若い人の思いを汲み取り、生かしていくような姿勢が人口減少が進む中で必要。

参加者

Uターンで加子母に戻ってきた。加子母には行事や食など、かろうじて昔からのものが残っている。それをきちんと残していけると地域の強みになると思う。加子母の味噌の作り方はほっとくのではなく丁寧に数カ月混ぜる独特の作り方。それを加子母産の大豆を使って、加子母で作り、加子母の名前で販売できるような仕組みができればいいなという話をしていた。

渋沢栄一さんのひ孫の渋沢寿一先生とお会いしてお話をした。加子母にも何回か足を運んでくださっていて、「加子母のいいところは、とにかく子育てとか人任せにしないところ。」と言われて、そうだなと思った。良い意味で人任せにしないし、まず自分たちでできることをやれる地域であり続けたら。

参加者

今年の5月から、地域おこし協力隊になり移住してきた。木匠塾の取り組みで通い始めてからは9年経つ。木匠塾を通して人として育ててもらった。加子母の教育力の強さを体感しているので、それをもっと強くしていきたいし、中津川市全体でももっと発信していきたい。木匠塾も全国から大学生が集まる良いところなので本格的に発信していきたい。

参加者

同じく地域おこし協力隊で加子母に移住してきた。木匠塾で初めて加子母にきて、代表をやらせていただいていた。コロナ禍で、人との接触をみんなが拒絶していたタイミングで加子母に来て、学生が来れず、たった1人で残されていた。都会にいたらコミュニケーションが遮断されるが、この人たちに家おいでよ、話しかせてよと誘ってもらった。加子母をどんどん好きになって気づいたらどっぷり浸かって今ここにいる。今は、シェアハウスをしており、この夏も加子母に興味を持っている学生たちが20人ぐらい泊まりに来た。明治座に連れて行って色んな人と話したり、いただいたおいしい野菜を食べたりレクリエーションみたいな日々を体験してもらった。来年から休学して加子母に来る予定の人もある。加子母に行きたいと思ってくれる人がたくさんいるので、いつでもシェアハウスにどんどん人が来れるようにしたい。それが空き家の活用や、加子母に若い人たちが来ることにつながるんじゃないか。

市長

何とか地域を良くしたいという強い思いがあり、積極的に活動をしてる方たちと対話集会をさせてもらっているが、今回も加子母の今後についていろんな角度からの話があり、共有しながら進めていきたい。市内それぞれ、自分たちの地域を良くするため活動している方たちがいる。それらを共有していけると良い形になっていく。その中でも加子母はモデル地域だと思う。それぞれの地域で誇れるものがたくさんあると思うので、それを通して地域を盛り上げていく動きができてくるとそれぞれの地域のコミュニティがまた活性化していく。それが市全体が盛り上がっていくことにつながっていくと思う。中津川市は加子母から阿木まで本当に広いが、それぞれの地域の活動が1つになって市全体のまちづくりにつながる。

リニア開業ほどのビッグチャンスはない。開業までに我々がどんなまちづくりができるか。岐阜県駅に

降りた人がどこに行くか、魅力ある中津川市にしていく中で、もっともっと加子母のいいところを生かして、市として一緒になって取り組んでいかなきゃいけない。都会的なことをやっても意味がない。田舎らしさ、自然をいかに活用して楽しんでもらい癒しを得てもらえるような場を作っていくかということが素晴らしい。そのポテンシャルを加子母は持っている。人口減少については加子母だけの問題ではなく、中津川市全体でも年間大体 1000 人弱ぐらい減っている。得策がないが、加子母には移住してきている若い方たちがいる。これをどんどん広めていく。前例があるので、それをPRしていくような取り組みもぜひ市内全域に広めていきたい。皆さんと一緒に地域を盛り上げていければと思う。ありがとうございました。